

矢作川流域圏懇談会通信

R6 第5回公開講座



発行日：令和7年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第5回公開講座を開催しました！

新たに提言された「流域治水から流域総合水管理への転換」を市民の方に「自分ごと」として考えていただき、市民と自然が共生する社会の構築を目指していくために公開講座を開催しました。

「ネイチャーポジティブ」や「流域総合水管理」はあらゆる関係者の協働が必要とされています。これからの日本には都心部も含め、様々な地域で人口減少が加速していきます。「人口減少時代」を強く認識した時、従来の価値観・技術論とは異なる新たなポリシーを構築する必要があります。

今回の公開講座は山部会座長の蔵治氏、名古屋工業大学の萱場氏、自然共生研究センターの森氏の3名による鼎談形式としました。場所は名古屋大学 減災館 減災館ホールで開催し、全国から多くの方にご参加いただきました。

日時：令和6年12月17日（火）14:00～17:15

会場：名古屋大学 減災館 減災ホール

テーマ：流域の視点から見た治水・環境と総合水管理
～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～

鼎談者：蔵治光一郎氏（東京大学 教授）

萱場 祐一氏（名古屋工業大学 教授）

森 照貴氏（土木研究所 自然共生研究センター長）

参加者：会場56名 オンライン92名 合計：148名



◆公開講座の内容

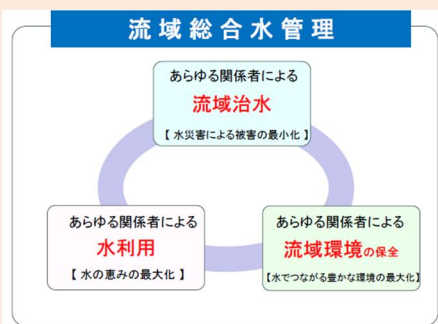
1. 流域治水から流域総合水管理へ

「流域総合水管理」は令和6年8月30日に閣議決定された「水循環基本計画」において位置づけられました。水循環フォローアップ委員長でもある蔵治氏に考え方を説明していただきました。

流域総合水管理とは…

治水に加えて、水利用・環境についてもあらゆる関係者が協働し、「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」の実現を図る。

【出典：これからの「流域総合水管理」の推進（令和6年11月1日）より】



会場の様子

2. 話題提供

蔵治氏からは球磨川流域をフィールドとした「地域共創流域治水プロジェクト」の「流域治水×環境再生/森林マネジメント」に関する話題提供、萱場氏は「地域共創流域治水プロジェクト」で研究している雨庭や多自然川づくりに関する話題提供をしていただきました。森氏からは「ネイチャーポジティブ」と多自然川づくりに関する話題提供をしていただきました。



蔵治氏の発表



萱場氏の発表



森氏の発表



■3名の鼎談

はじめに洲崎氏より地域で取り組んでいる防災の事例をご紹介していただき、「流域総合水管理やネイチャーポジティブを実践していくために重要なこと」、「各地域で市民と行政が一体となって何ができるか」という視点で鼎談していただきました。

なお、当日の様子はYoutubeでアーカイブ配信しています。視聴したい方は下記QRコードより視聴してください。

【主な意見】

- ・ 「何とか」×「何とか」を考える際にトレードオフの関係になる。何かをやると何かが失われることもある。
- ・ 経験というものが消失している。良い環境やいい川が分からなくなっている。
- ・ 横軸に治水としての効果、縦軸に環境としての効果をとって考えることが重要。プラスにならなくてもマイナスにしないということが重要である。
- ・ 2年後くらいには、災いを寄せ付けないという治水の話だけではなく、恵みとして一体何が得られるかということも話せるようにしたい。
- ・ 大熊先生は大技術、中技術、小技術という分け方をしており、「治水にも自治を」という話をされていた。地域の地形や風土も考慮した技術を使いながら治水を進めていくべきである。
- ・ 地域が豊かになるような仕組みや地域のことはなるべく地域でできるようにしなければならない。
- ・ 平成の初期は景気が良く、環境保全がエンジンになった。今はそうではないため治水にもよく、環境にも良いという論点で何とか多自然川づくりを見直したい。
- ・ 矢作川流域には名だたる企業がたくさんあるため、矢作川流域圏大学のようなものがあったても良いのではないか。若者が集い、幸せに暮らすような流域の姿というのを、森林、農地、都市、川、海、に関わる全ての人で議論していく。
- ・ 環境に対して意識の高い企業が増えており、HP等を確認するとプラスチックや生物多様性等の環境に関する記載がされている。
- ・ 異分野の人との出会いには様々なヒントが隠されている。交流や意見交換を通じて科学反応が起き、様々な発想が出てくる。
- ・ 雨庭等は本当に効果があるのかという声が多い。ただ、流域治水は積み重ねであり、雨庭等の小さな治水をコツコツと積み上げていくことが個人に求められており、やれる範囲でできることをやることが大切である。トップダウン的な流域治水の考え方ではなく、コミュニティーベースでどういった治水をするを考える必要がある。

■意見交換

会場やWeb参加者も含めて意見交換行いました。

【市民にできることは何か】

- ・ 市民の衣食住の元となるものを生産しているのはどこかの国の一次産業であることを認識する必要がある。そのうえでスーパー等に行った際にどこの農林水産業が続いてほしいかを考えるだけでも変わってくると思う。
- ・ まずは山、川、海に行って自然に触れることが重要である。そういった中で感動体験があると、自然や環境に興味を持つきっかけになると思う。

【他分野の企業に求められることはどういったことか】

- ・ 単に植林イベントやボランティア団体に寄付するだけでなく、社会課題を解決したいという企業が徐々が増えていくと思う。企業からは課題解決手段を問われた際に課題や課題解決に向けた手段を説明し、企業と組んで一緒に社会課題を解決していきたい。

【興味の無い方に流域の課題等をどのように気づいていただけるか】

- ・ 興味の無い人を変えることはとても難しい。そのため、ニュートラルな人を対象に少しずつ興味を持っていただくことが大事だと考える。興味を持ってもらうためには年代によってやり方は違うと思うが、Youtube等の活用が挙げられる。その中で気を付けていることは分かりやすい資料を作成し、理解していただくことが重要と考える。



地域で取り組む防災の紹介



鼎談の様子



アーカイブ配信
QRコード

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

